

運転免許制度の推移		
1 大正8.1	運転面免許、試験制度の始まり 自動車運転免許制度が統一され、三ツ沢公園等で技能試験 横浜開港記念館で学科試験を実施、免許証は知事の発行	
2 昭和6. 3	横浜市神奈川区六角橋に神奈川県自動車免許試験場を設置	
3 昭和23.3	運転免許証は県公安委員会の発行となる	

年別	交通安全協会関係		警察 関係団体 社会情勢等	
昭和 23	5月	昭和22年自家用組合主体の「交通安全協会」から「鶴見交通安全協会」と改め創立 (初代会長 筒井廣一)	1.26	帝銀事件発生
〃 28	6.1	交通安全思想普及と区民の事故防止を図るため、鶴見交通安全協会規約制定	2. 1	NHKテレビ本放送開始
〃 29	4月	協会事務所を平安町新栄運輸(株) 内に置く	7. 1	現行警察制度発足神奈川県警察発足 (自治体警察解消)
	12.31	鶴見区内の交通死者史上最高 53名を記録	7.6	横浜市営トロリーバス運行開始
〃 39	5月	鶴見交通安全協会事務所を新栄運輸(株) 内から、鶴見警察署に移転	3. 1	横浜、川崎市内で交通切符制度適用
〃 40	6月	鶴見交通安全協会交通事故相談業務開始(区役所市民相談室内)	1.1	伊豆大島で大火(340戸全焼)
〃 45	6月	安全協会の事業拡大に伴い総務、財務、企画、事業、教育、広報、地域対策、渉外の各部設置	3. 31	日航「よど号」事件発生
			12.31	交通死者全国史上最高記録(16,756人)
〃 50	6.1	鶴見交通安全協会会則を施行(昭和28年施行の鶴見交通安全協会規約は廃止)	3.1	新幹線博多まで開通
	11.15	鶴見交通安全協会創立第25周年記念式典開催(鶴見公会堂)	5. 7	エリザベス英女王来日
〃 56	2.12	鶴見警察署新庁舎落成 (安協事務室同署内)	3.19	神戸ポートピア81開幕
	10月	鶴見交通安全協会会長代行に林一男就任	3.31	横浜横須賀道路(狩場~朝比奈間)開通 (保土ヶ谷バイパスと接続)
〃 61	5.1	鶴見交通安全協会会長に東海林昭市郎(第4代会長)就任	5. 4	東京サミット開催
平成5	4.1	鶴見安協窓口で免許証郵送業務開始	春	政府交通渋滞緩和対策5ヶ年計画策定
	5.7	免許更新手数料の改正 (優良運転者2,900 一般運転者3,900)	春	超金利時代突入
平成 8	4.8	春の全国交通安全運動 前巨人軍原辰徳氏オープンパレード実施 (一日鶴見警察署長委嘱)	春	ダイオキシン(有機塩素化合物) 小規模 焼却場で多発社会問題
平成29	6月	鶴見交通安全協会会長に堀晃一 (第5代会長)就任	春	トランプ大統領の就任

令和2年		鶴見交通安全協会会長に大野慶太 (第6代会長)就任	春	コロナウィルス緊急事態宣言
令和7年	4月 6月 8月	窓口の証紙販売業務が廃止 一般社団法人に組織変更 免許更新が予約制に変更	夏	戦後80年